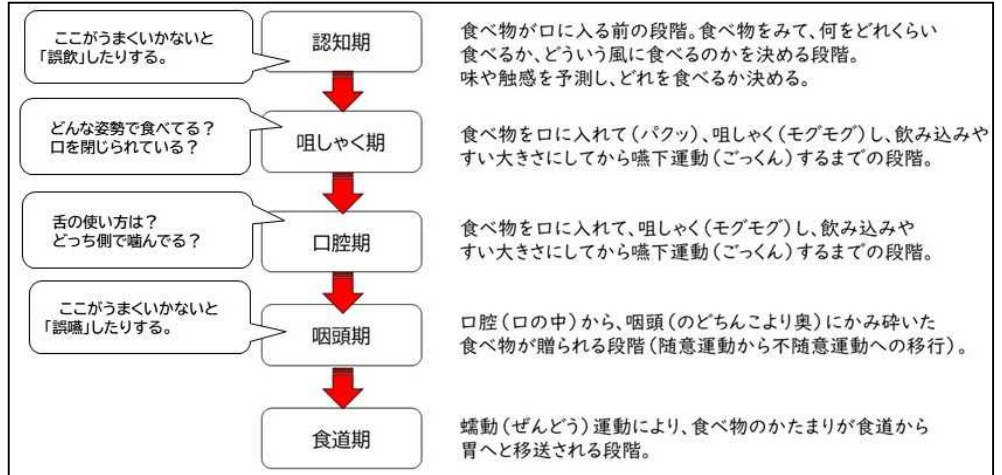


給食指導（概論）

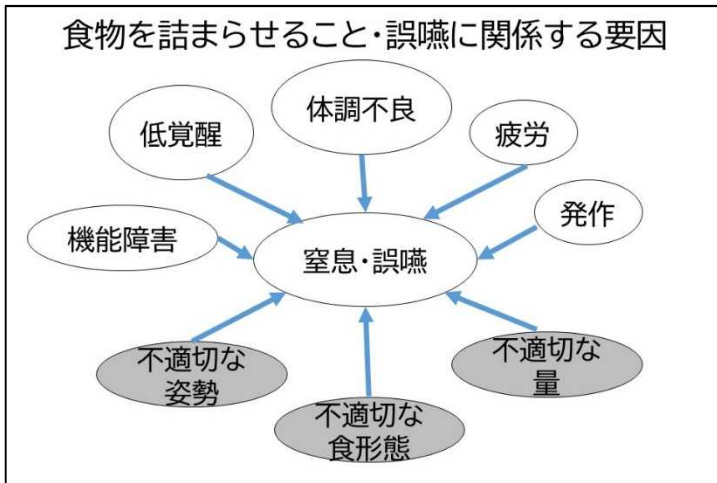
1. 「食べる」ということ

「ひとえに「ご飯を食べる」と言ってもいくつかの段階に分かれます。知的障害特別支援学校でよくあることは「食べ物ではないものを認識できずに『誤飲』してしまう（Ex. スーパーボールとか、砂とか、洗剤とか）」や、特にダウン症のある子が歯の欠損や舌の形状からくるコントロールの難しさなどによって「誤嚥」したり、喉に物を詰まらせてしまったりする事故です。



2. 注意が必要な「喉に詰まらせること（窒息）」と「誤嚥」

「食事中の事故は本当に怖くて、下手をすると命に関わります。なので「詰まらせること（窒息）」や「誤嚥」の原因には配慮が必要です。知的障害特別支援学校で起こりやすいのが特に下3つのグレーの要因です。



(1) 不適切な姿勢

「やってみるとわかりますが、真上を向きながら水を飲んだりすると、液体が軌道に入りやすくなり、誤飲の原因となります。食べ物でも同じで、首を後ろに傾けたまま食べる癖のある子は窒息・誤嚥をしやすいので注意が必要です。

(2) 不適切な食形態・量

「子どもの食物のモグモグ（咀嚼）、一口量には注意が必要です。詰まらせる危険性のある大きさで喉を通過していないか？モグモグのスキルはどの程度か？を特に低年齢段階のうちには注意してみる必要があります。

3. 単に完食を目指すのではなく、何に焦点を当てて食べるのかが大切

食事指導の際、どうしても「全部食べてほしい！」という気持ちが先行してしまいがちですが、支援する大人は「給食指導の何に焦点を当てるのか」をあらかじめはっきりさせておくことが大切です。姿勢？パクッ（口の開け方）？モグモグ（歯の使い方？下の使い方）？ごっくん？（丸飲み？むせ？）

4. 意外と短い食事への集中力

食事にも子どもの集中の持続時間があり、短くて5分、長くて15分といったところです。時間を区切って楽しい食事であることを保ちながら、でも有効に教育効果を上げていく設定が必要です。